



なぜ長期低迷はつづくのか

暮らしの改善策を国の財政から考えよう



私たちはこのところの急激な物価上昇に驚きと腹立たしきを感じない日はない。世間にはものの値段があまり変わらないことをこの数十年当たり前としてきたところがあるのではないか。この状況はデフレというが強く認識してきた人はどの程度いたか。安定していた物価の突然の値上げラッシュ、なぜ値上げを感覚的に許容できないのかを考え、国の財政政策にも迫ってみよう。

※いまの日本経済は主要国GDP成長率のグラフからゼロ成長と読み取れる。平均年間賃金もこの20年賃上げされず横ばい、ときにはマイナスな年もある。政府の国民生活向上への投資は最低位であり、GDPが伸びない原因となっている。

これらのことは

主要国経済から日本はとり残されていることを認識しなければならぬ。本年に入り輸入に頼るエネルギー、穀物は円安で年初来の急激な物価上昇に遭遇し皆苦しんでいる。いま政府が行うべき対応策は国民の負担を軽減することだ。まず全国民に直ちに恩恵をもたらす消費減税または廃止だ。最低賃金1500円の保障、教育の無償化などは誰にでも思い当たることだ。

ここに至るまで国民の暮らしを改善できなかった責任は25年にも及ぶデフレとしてしまった自公政権にある。もつとも支持してきたのは国民でもあるわけだ、党内を注視すれば中に異なる政策の提言もある。穏やかなインフレ率2%、消費税減

税また廃止そして積極財政への声だ。法人税、所得税増への見直しも、P/B堅持で緊縮財政の財務省には真逆となるが、暮らしの向上に政治信念として果たしてもらいたい。

国家財政政策は暮らしに直結する。歳入、歳出で国債が果たす役割は重要だ。再び主要国並みの暮らしを取り戻すには国債で国民への投資を増額するよう政治に求めることだ。野党内にはP/B堅持、消費税増税また国債に頼るなどの考えもある。さて私たちはいまなすべきことは何か、それは国の財政に無関心でいてはならないというこのようだ。

※ GDP 国内総生産
P/B プライマリバランス
税収と歳出の収支

● 平和のつどい・のだ2022 ●

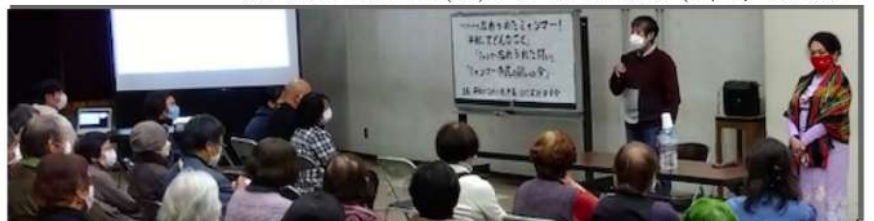
報告

「ウクライナで忘れられたミャンマー」講演会

ミャンマー人のご夫妻を招き、ミャンマーの実態を聞きました。2021年のクーデター以後平和的な抵抗をしていた市民への軍による攻撃がすさまじく、命を守れないから武器を持って闘うようになった。家を焼かれ、子どもも殺されている。国連やジャーナリストも行くことはできない山の中で避難民の支援や子どもたちの教育支援に若者たちが命をかけて頑張っている。軍は腐敗しきっている。近い将来平和的に解決できるよう頑張っている。

ご支援をお願いしたい。そして日本の政府に働きかけてほしいと。日本が大好きというご夫妻の言葉に、私たちは何ができるのか、考えさせられました。(主催:平和のための戦争展・のだ実行委員会)

講師のウィンチョウさん(左)とマティダさんご夫妻(11/23)中央公民館



今月の予定です

＜コロナの感染状況で変更・中止 することがあります。＞

12月9日(金) 16:00～17:00

9日
行動

九条通信配布・ボードでアピール

梅郷駅 通路

野田・九条の会

12月10日(土) 13:30～16:00

野田・九条の会
12月例会

今年の九条の会の反省と来年度の活動について

梅郷のホール 第1集会室

野田・九条の会

12月11日(日) 13:30～16:30

DVD視聴と
意見交換

侵略レポート&沖縄1967年18歳の発言

南部梅郷公民館

南地域九条の会

12月19日(月) 13:30～15:30

ちょっと硬派な「おしゃべりカフェ」 社会や政治のことなど気軽に
おしゃべりしましょう。

市役所8階 レストラン会議室

野田・九条の会

第2日曜日です

1月8日(日) 13:30～16:30

DVD視聴と意見交換

「認知症の親が鉄道事故に 社会を動かした逆転裁判」

南部梅郷公民館

南地域九条の会

年金生活者Kさんは次のように話していました。「10、11月の医療費の支払いが44,324円、10月から負担率が10%から20%に引き上げられた結果だ」と。たまたま90日分の薬価代と歯を入れた治療費が重なったからとのこと、「以前なら半額で済んだのに月々の年金受給額約15万円に占める割合は大きい」といっていました。負担率が上がったのは昨年の収入が200万円を越えていたからだそうです。

「去年は働いていたので月に10万円弱の収入も有った」とのことですが現在は体調が悪化し働けず年金収入だけになったそうです。

＊

岸田首相は新しい資本主義ということで成長なくして分配無しという政治を押し進めています。当初は分配無くして成長無しと言っていた筈ですが企業の利益優先の政治にすり替えた訳です。

この政策転換は医療・介護の負担が高齢者にはますます重くなり、また国民全体にも負担を強いることです。さらには年金の払込期間延長、受給開始年齢の引き上げまたインボイス制度の徹底、そしてこの後消費税率引き上げが考えられているようです。

円安、物価高は全国民に非常な負担を強いており、Kさんの家計でも電気、ガスの料金が昨年と比較し毎月高くなっていて、ここ4ヶ月は九千円超の負担

増とのこと。特に非正規雇用で働く方、奨学金で学ぶ学生さん、シングルファーザー・マザー、障害のある方、生活保護受給の方などすべての生活弱者を襲う大ピンチです。

憲法第25条の一項は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」二項で「すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」としています。私たちにはこの権利が保障されています。要求しましょう。分配無くして成長無しの政策を！

まず賃上げです。春闘で5%の賃上げと、最低賃金引き上げです。岸田政権は働く人の解雇を容易にする政策も進めようとしています。米国ではアマゾン、メタ、ツイッターなどの大量解雇が進んでいて日本も同様、働く人は大変です。

憲法の理念と真逆な岸田経済政策は国会解散で国民に信を問うべきです。私たちは権利の実現のため、来年行われる統一地方選挙では憲法の意志を示すことが必要と思います。



平和をつなぐ

長島宏子

今年の「平和のつどい」展示会も無事終了しました。表看板を作成しました。この看板はウクライナカラーでデザインし国土が破壊されるというイメージで作りました。ある日突然自分たちの平和な日々が壊されるということ、現代では想像も出来ない話ですが80年近く前には自分の身近な所で起こった事実です。「平和のつどい」ではその事実を後世に伝え、平和の世を願う人々の輪で作られています。

平和を伝える方法の一つとして「絵本」があります。絵本はこどもたちに分かりやすく恐怖感を与えずに伝えられる優れた作品です。一つ

ご紹介します。「せかいいち うつくしい ぼくの村」(小林豊 ポプラ社)

ヤモの住む村はアフガニスタンにある果物が沢山採れる美しい村です。

ある日ヤモは市場に父さんと果物を売りに行き、一人でサクランボを沢山売りました。こひつじを買って春には大きくしようと楽しみにするヤモ。ところが……



というお話です。

村の美しい情景を見ながら戦争のことを子どもたちだけでなく、大人も考えていきたいお話です。

沢山の平和の絵本が出ています。大人の方も一度読んでみてはいかが？